

昭和六十三年五月十五日 [講演要旨・感想記]

## 「人類史における現代の意義」

(財) 日本モンキーセンター所長 京都大学名誉教授 河合雅雄先生

人間とは不思議な動物で自分のことはよく分らない。特に現代では人間が技術的社会的にどう変化していくのか全く予想不可能である。それは今や文明の速度が最高となっているからであろう。

ただ、現代は人類史上一番大きな変革期であり、史上初めて人類絶滅の危機にさらされていることは確かである。核戦争の危機はその例と言える。実際、学生の調査からも欲望の全肯定とナルシズム・利己主義の傾向は明らかである。これが世界レベルで現れたのがAIDSの流行で、人類は生殖を離れ快樂のみを追求した結果、単に個体の死のみならず種の命という永遠性のもので失いかけているのである。現代はこのような危機を抱えているのである。

一方動物は種の命を永らえる道を心得ている。例えば熱帯雨林に見られるような食い分け、住み分けといった野性の知恵を生かし共存を可能としているのである。その原理は、とればそれだけ与えるという簡単なものなのである。この共存の原理は、波高い国際社会に乗り出す

日本にも、また争い多い国際社会自身にも有効だろう。

### 感想

我々は国際社会と日本とか、全世界の問題とかを考える際、政治・経済・社会的に問題をとらえがちである。しかし必ずしもそれが問題解決になるとは限らない。これに対し河合先生の紹介なさる自然人類学は、状況を何十万年に及ぶ人類史という超マクロ的視点から解決の糸口を与えてくれる。前述の政経社会的観点からすると安易過ぎると思えるかもしれない。しかし要旨からは落ちたが、先生の自然社会に対する観察の鋭さは並の学問の比ではない。この着実な自然観察と自然から学びとろうとする謙虚な姿勢こそが、現代社会の抱える病巣に対し大胆かつ適確な対処を打出すことを可能にしているのだなと感じた。

※DVD収録のご講演録には、現在では不適切と思われる表現が用いられている場合がございますが、講演時の時代背景等を尊重し、当時のままといたしました。

西寮 東大一年 羽尾成史